

切磋琢磨

令和5年度 朝礼 (5/29) 校長の話

おはようございます。週末の体育祭に向けて、どのクラスも熱を帯びてきたころかと思います。体育祭は力と力がぶつかり合い、競い合う行事です。しかし、それは相手を蹴落とすということではありません。対立するのは、互いに磨き合い、よりよく成長するためだということをお覚えておいてください。

磨き合うことによって、自分の中のとがった部分が消え、輝いていくこと、これを「切磋琢磨」といいます。こういう字を書きます。

この言葉は、もともと動物の骨や角、また石や宝石などを削って形を整えるという意味ですが、それが後に友人同士が互いに励まし合い競争し合って共に向上すること、という意味をもつようになりました。

パナソニックという家庭電器を始めとした様々な製品を世に生み出しているメーカーを知っているでしょうか。おそらく皆さんの身の回りには、当たり前のようにたくさんパナソニックの製品があると思います。その創業者である松下幸之助さんという人物が、かつてこう言いました。

「ダイヤモンドの原石は、磨くことによって光を放つ。しかし、それは、カットの仕方によってさまざまに異なる燦然とした輝きを放つのである。私は、人間というものはそれぞれに磨けば光る、さまざまな素晴らしい素質をもったダイヤモンドの原石のようなものだと思う。」

そう言いました。さすが、小さな電気屋から世界的な企業に育て上げた人の言う言葉には説得力があります。私たち人間は、だれもが磨けば光るダイヤモンドのようなものだといっています。

ところで、ダイヤモンドは、実は世界一硬い石であるということを、皆さんは知っていたでしょうか。もしダイヤモンドを金属のヤスリで磨いたら、金属がボロボロになるといわれています。そんな硬い石をどうやってカットしたり磨いたりするのでしょうか。実は、ダイヤモンドを磨けるのは、同じダイヤモンドしかないのです。粉末状にしたダイヤモンドを円盤のような形に加工して、その円盤を回転させ、そこへごつごつしたダイヤの原石を押し当てて削るそうです。

人間もダイヤモンドの原石です。とすれば、人間を磨くものは、何でしょう。そう、人間しかありません。人間は人間によって磨かれる。人と人がぶつかり合い、削り合ってこそ、互いが互いを理想に近づけるのです。これこそ、まさに「切磋琢磨」です。

体育祭はそんな「切磋琢磨」の絶好の機会でしょう。ぬるい関係では成長もできません。力の限りぶつかり合うことにより、互いに磨き合い、燦然と光り輝きます。

私は、磨き合いには二通りあると思います。

一つは相手チームとの磨き合い。相手に負けまいとする気持ちが、自分たちの中の秘めたパワーを呼び覚まします。相手がいるからこそ、過去の自分たちよりも強い未来の自分たちに成長できます。この磨き合いは大事です。

もう一つは自分のクラスの中での磨き合いです。集団競技では、自分の思うようにいかないこともあると思います。自分にミスがなくても負けることがあります。もっと速く走れるのに、仲間に合わせて一歩引かなければならないというときもあります。反対に、他の人が速すぎて自分に合わせてくれないから失敗してしまうというときもあります。悔しい思いはよくわかります。しかし、失敗を誰かのせいにしてるのは、自分の中のとがったものがまだ磨かれていない証拠です。そのとがりは決して輝きません。そういう嫌な部分は、仲間と息を合わせようとがんばっているときに、どんどん削られていくということを忘れないでください。

「失敗しても誰かのせいにしな。成功したら誰かのおかげと思う。」

そう思える心が、人間の成長した心の形であり、燦然と輝く心の姿だと思います。

この体育祭では大いにぶつかってください。そしてとがったもの、いびつなものをそぎ落として、体育祭が終わったあとには、八中全員がダイヤモンドのように輝いてほしいと願っています。頑張ってください。以上です。